JST-RISTEX「科学技術のELSIへの包括的実践研究開発プログラム」(RInCA) ロジックモデル（2023年度版）

R&D Activity 活動 / **Output アウトプット**

a. 具体的なELSI対応方策の創出

科学技術やそのELSIの特性を踏まえた具体的なソリューションの開発 →

- ELSI観点でのリスク・ベネフィット、インパクト等の分析・評価
- 新たな価値を提供するビジネスデザインや、知財・標準化戦略
- レギュレーション、スタンダード、保険・補償等のルール形成への提言
- 多様な社会・環境下での設計指針や境界条件、行動規範(CoC)の提案
- リスクガバナンスのための評価指標や指針、ガイドラインの提案

b. 共創の仕組みや方法論の開発

ELSI検討を研究開発現場へ機動的にフィードバックする仕組みや方法論の開発

科学技術コミュニケーション機能とデザインの高度化のための実践的検証と開発

新たな科学技術を活用した科学技術コミュニケーションの高度化に資する手法開発 →

- あるべき社会像や問題構造、課題群、ステークホルダーの探索・予見・分析
- 共創的科学技術イノベーションのための対話設計・コーディネーション手法
- 上流からのステークホルダーとの共創手法やテクノロジーアセスメント等の機能
- 多様なステークホルダー間における科学技術やリスクの知識翻訳手法
- 多様性の中での建設的な議論の成立や収斂の対話・調整手法
- 科学技術コミュニケーションを高度化するための評価方法・指標
- 新たな科学技術を活用した、コミュニケーションを高度化するシステムやツール

c. トランスサイエンス問題の事例分析とアーカイブに基づく将来への提言 →

- 日本の過去および現在の顕著なトランスサイエンス問題の事例分析
- 課題抽出とアーカイブ化に基づく提言、海外への発信

プロジェクト ↕ プログラム

「根源的問い」への探求・考察を通じた、研究・イノベーションの先に見据える社会像の提示

↳ ガバナンス、リスクと安全・安心、公(パブリック)と私／官と民／集団と個人の関係、自律性、信頼と責任、競争と調和、効率と公正、社会正義、世代間の差違と公平性、物質と精神、自然観、尊厳・人権主体性・アイデンティティなど

科学技術と人・社会に関する日本社会の特性を考慮した普遍的価値の考察と、それに基づく国際発信

ELSI/RRIに関する深い理解を持ち、研究開発の場で生かすことができる人材の輩出

ELSIへの適切な対応による責任ある研究・イノベーション推進のための実践的協業モデルの提示 →

Client 受け手・担い手

- 企業
- 投資家
- 政策立案者
- 技術者 自然科学研究者
- 人文・社会科学研究者
- NGO NPO
- 市民
- インキュベーター カタリスト
- URA コミュニケーター 科学・博物館
- 大学 独立行政法人

→

Outcome アウトカム

研究開発現場への普及・定着

- 産官学民の多様な研究開発現場において広く展開し定着する
- 日本の文脈をふまえた標準化やルール形成に反映される
- 継続的な場や専門的な機能を持った拠点やネットワークが構築される
- さまざまな分野や場でELSI/RRI人材が広く活躍する

持続的基盤の整備

→

Goal 目指す状態

科学技術と人・社会が調和する、責任ある研究・イノベーションのエコシステムの構築

国立研究開発法人 科学技術振興機構 Japan Science and Technology Agency